

「伝えるー災害の記憶」あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料
「災害の記憶をもういちど-大阪の災害史」展開催のお知らせ

UNPEL GALLERY は、「伝えるー災害の記憶」あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料「災害の記憶をもういちど-大阪の災害史」展を9月1日（防災の日）から開催します。

本年は1995年に起きた「阪神淡路大震災」から30年目となるのを機に近世の大阪（当時は「大坂」）および関西で起きた災害に焦点をあててコレクションの一部をご紹介します。皆様と一緒に災害に対する心構えや備えについて考えるきっかけとなれば幸いです。

【コレクションについて】

大正後期～戦前期にかけ、あいおいニッセイ同和損保の前身社のひとつ同和火災海上保険の廣瀬鉦太郎（ひろせえつたろう）が収集した約1400点の資料群です。おおよそ18世紀～20世紀初頭にかけて全国各地で発生したさまざまな災害（地震、火災、台風、落雷、津波、噴火、伝染病など）に関わる、震災・交通資料を主としています。

東京大学地震研究所図書室、旧東京大学社会情報研究所の所蔵資料とともに、日本で最も大規模で重要な災害関係資料群の一つと評されており、これまでに全国の博物館での展示や一部は「災害の記憶 デジタルミュージアム」としてUNPEL GALLERYのHPでも公開しています。展示されている絵図は、一般財団法人NHK財団の超高精細映像とAI音声合成技術により、鮮明な画質と絵図に描かれている「くずし字」と「解説文」の読み上げなどで再現されています。

「デジタルミュージアム」の入り口はコチラ → <https://unpel.gallery/saigai-no-kioku/>

■ 基本情報

タイトル	「伝えるー災害の記憶」あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料 「災害の記憶をもういちど-大阪の災害史」展
会期	2025年9月1日（月）～9月28日（日）（9月1日（月）は開館） 11:00～19:00（月曜定休・最終日17:00まで）【入場無料】
会場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
主催	UNPEL GALLERY
企画協力	一般財団法人 NHK 財団
特別協力	「みんなで翻刻」
資料提供	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

【展覧会・掲載資料他 お問い合わせ先】

■ UNPEL GALLERY（担当 / 井上、渡邊）

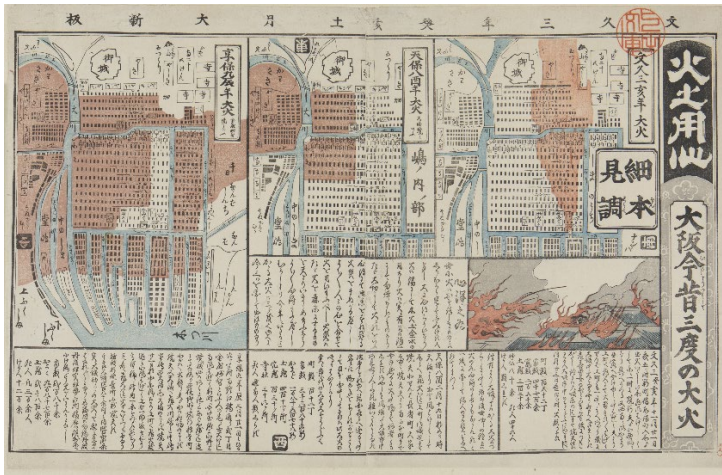
E-mail / tsubaki@unpel.gallery

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781

■ あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 広報部（担当 / 神保）

TEL / 050-3461-6242

■主な展示作品



「大阪今昔三度の大火」 文久 3 年（1863）

大阪やその周辺地域における災害の記録で特筆されるのは、江戸中期の享保 9 年（1724）に起きた大火「妙知焼け」です。その後、江戸後期・天保 8 年（1837）の「大塩焼け」、幕末の文久 3 年（1863）の「新町焼け」とともに大阪三大大火として今に伝えられています。

「嘉永七年寅十一月大坂大地震大津浪」 嘉永 7 年（1854）

大火のみならず、嘉永 7 年（安政元年・1854）11 月 4 日と 5 日、未曾有の大地震と大津波が大坂市中を襲いました。「東海地震」と「南海地震」が 30 数時間の時差で起こったと言われています。地震動による家屋倒壊や津波による被害の悲惨な様子は、直後に刊行された瓦版（刷り物）や、文書・記録などに詳細に書き留められています。

本作品では、「地震で足元が揺れる恐怖と建物が倒壊する危険から船に乗り安心したものの、津波が押し寄せて船もろとも転覆したのだった」と、なぜ多くの人が船で逃げようとしたのかが詳しく書かれています。



「慶応四戊辰年大洪水細見図」 慶応 4 年（1868）

風水害では、慶応 4 年（1868）の大洪水で淀川流域各所で浸水被害や橋の流失、堤防の決壊が発生しています。また、時代が大きく動いたこの年には、いわゆる戊辰戦争（鳥羽伏見の戦い）も勃発して、大阪城周辺から土佐堀、難波新地、堺などで火災の被害が大きかった模様が刷り物として伝えられています。